

第20回しながわ平和のための戦争展開催にあたって

1984年(昭和59年)手さぐりで始めた「しながわ平和のための戦争展」は、今年で20回目を迎えました。その間、地域の多くのかたがたにご支援いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

開催当初からしばらくは、小さな子どもたちで会場が埋まるほどで、大人だけでなく多くの子どもたちに戦争の恐ろしさを伝えることができました。

今、日本国憲法の平和的条項が次第になしくずしにされてきています。今年3月、世界中の人々の戦争反対の声を無視して米英は、イラク戦争を始めました。日本政府はこれを支持し、さらに、世論に抗って有事法制を、そして自衛隊を海外に派兵する「イラク派兵特別措置法」を強行し、いまや、日本は戦争する国に変わろうとしています。

私たちは、今こそ「過去の過ちを繰り返さない」ために、過去の戦争の真実をしっかり見つめ、核兵器のない平和な21世紀にしていくために、みなさまとともに平和を守る人々の輪を広げて生きたいと考えています。

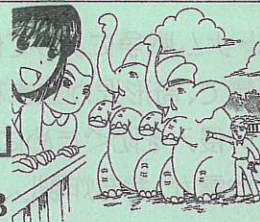
しながわ平和のための戦争展実行委員会

8月14日(木)①13:00~②14:00

大型紙芝居「ぞうれっしゃがやってきた」

出演 品川平和ゼミナール・高校生平和のつどいOB

「未来を担うのは子どもたち。そのこどもたちに少しでも分かりやすく戦争の恐ろしさを伝えたい」そう考えた私たちは、大型紙芝居を作ることになりました。上野動物園の象が戦争中殺された「かわいそうな象」の話は多くの方が知っていると思いますが、戦争を生き抜いた数少ない名古屋の東山動物園の「ぞう」の実話です。大人も子どもも是非ご覧下さい。



8月17日(日)14:00~14:40 出演 朗読集団「風」

朗読「むらさき花だいこん」「焼け跡の水」

戦争で心も体も傷ついた兵士は、中国から持ち帰った種を日本中に蒔き、広がっていきました。平和を願って…。道端に咲いているむらさきいろの花だいこんにまつわる実話。もうひとつは、区内の学童疎開・空襲体験記です。

しながわ 2003年 第20回

平和のための戦争展

見つめよう戦争の真実を一線り返すまい戦争への道-



新日本出版社

とき 8月13日(木)~17日(日)

10時~20時(最終日は18:00まで)

ところ 品川区民ギャラリー(イトーヨーカドー大井町店8階)

大井町線 大井町駅1分

主催 しながわ平和のための戦争展実行委員会

連絡先 03-5742-7563(西條) 03-3727-8382(扇谷)

戦時下の子どもたち

戦争は子どもたちの生活と教育に大きな影響をあたえました。1941年に小学校は、国民学校と名前を変えられ、教育の内容もそれまでより一層軍国主義的になり、戦時色の濃いものとなってきました。戦争が激しくなり、空襲を避けて、都会からの学童疎開が実施されました。子どもたちは、いつ帰れるかわからないまま、食糧難、ノミ、シラミ等に苦しめられる集団生活をおくりました。

「ランドセル地蔵」をご存じですか？品川の「原国民学校」学童疎開児が機銃掃射に会い亡くなった事実まつわる話が児童文学になっています。亡くなった神尾明治くんと同級だった元延山小校長北川先生の思いでお聞きしました。(表紙の絵・写真)



子どもの頃空襲があった一品川・東京一



延原町駅附近

戦争中の旧荏原区は、消失面積は97%で、都内第1位でした。

小島さんは、現在小平にお住まいになっていますが、戦争中、西中延(今の旗の台付近)に住んでいました。品川の空襲体験を絵に残そうと以前から考えていたが描けず、3年前からやっとの思いで、描き始めたそうです。空襲で亡くなった多くの方々への哀悼と平和への思いを込めて、今年、空襲直後の荏原町駅付近の様子を中心に描いてくださいました。私たちが住んでいるところで起こ

った戦争の実態が、リアルに迫ってくると思います。

品川の空襲について当時の子どもたち(70代)に聞いてみました。直接空襲の中を逃げまどった体験は誰もが「思い出したくない」「わかってもらえないと思うので話したくない」と語ります。筆舌に尽くしがたい体験談でした。また、東京で罹災後、地方に疎開してまた空襲にあい恐ろしい思いをしているお話も聞きました。全国至る所で空襲があり、爆撃されたのです。

(台詞) 5888-7578-80 (新宿) 8327-5478-80 武蔵野

侵略戦争とアジアの子どもたち

1931年日本は、「柳条湖事件」(満州事変)を起こして中国東北部への侵略をすすめて(満州国)、1937年には、「ろ溝橋事件」をきっかけに中国での戦線を拡大しました。さらに1941年、マレー半島コタバル並びに真珠湾を攻撃し、東南アジアから太平洋の島々にまで侵略戦争を広げていきました。当時植民地であった台湾や朝鮮の民衆を戦場へかり出し、中国や東南アジアでは、多くの人々を殺害しました。一方、日本の占領支配を強めるための皇民化政策(天皇のために命を捨てる心づくり)を進めました。

15年戦争下、被害者数は日本300万人、アジア2000万人を超えると言われていいます。戦争によって被害を受けるのは戦闘員でない子どもたちです。アジアの子どもたちに目を向けて展示を考えました。



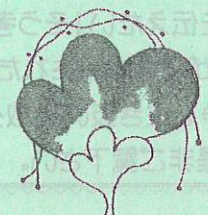
世界の子どもたちは今...

ベトナム戦争によって使われた枯れ葉剤。イラク戦争で使われた劣化ウラン弾。その影響で、奇形児が生まれ、子どもたちは白血病に苦しんでいる。

敵の侵入を防ぐために使われた地雷。その効力は長く、第二次世界大戦中に埋められた地雷が、今も炸裂し、子どもたちが犠牲になっている。

犠牲に会い、苦しむ子ども。しかし、その苦しみをバネに、生きる権利や平和を求め、子どもたちは立ち上がり始めている。

希望を伝えたい。



実物が語る戦争

戦争中、子どもたちはどんな生活、遊びをしていたのでしょうか。今回は、子どもの生活に焦点を当て実物を展示します。百聞は一見に如かず。実物が訴える声を聞いてください。

実物資料を提供して下さる方、御連絡ください。